



信太の森ニュース

No. 30

2018年10月18日

文責 田丸八郎



いま惣ヶ池湿地ではミゾソバが満開



台風21号で惣ヶ池湿地は倒木、落木により数か所で外周柵が破壊されました。

この夏は、記録的な猛暑続きで地球温暖化が進んだ印象の強い夏でした。西日本を中心に記録的な大雨で広島、岡山などで洪水や土砂災害が続出したのに続き、大阪は第2室戸台風なみの勢力の強い台風21号に見舞われ、会員の多くが大なり小なりの被害にあわれたのではないかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

台風21号の被害は惣ヶ池湿地や丘陵市有地でもありました。惣ヶ池湿地では外周柵が倒木により数か所で破壊されました。湿地の倒木処理はほぼ終了し、柵の修復を行うだけですが、市有地内の倒木も多く、それらの処理にはまだまだ時間がかかりそうです。

市有地内でも湿地やツツジ再生林などで倒木があり、その処理にも労力と時間がかかりそうです。

台風による二日間の停電で電気のない生活を経験しましたが、電気が通じたかと思うとテレビは北海道で震度7の大地震発生を報じていました。

最近自然災害が多発しています。大阪でも6月に地震がありました。地震ばかりはどうすることもできませんが、猛暑や台風の大型化の原因は地球の温暖化が進んだ結果だそうです。

化石燃料などに頼らず、風力やソーラーなど再生可能エネルギーへの転換、車の利用ができるだけ控えるなど私たちの生活スタイルを変える必要があるのではないかと思います。

変き先前野上早矢香の「風神」(2018年)

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局:〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動き

信太山丘陵市有地の保全活動については、車道西側エリアの草刈と車道東側エリアに少しづつ活動エリアを広げながら公園整備を進めています。まだまだ草刈が中心ですが、里山講座を開催して市民の参加を呼びかけたりしながら進められています。

平成36年の一部開園に向けては、今年度都市計画決定を行うとして、それに向けた大阪府との協議が現在進められており、10月16日に都市計画決定についての市民説明会が行われることになっていきます。

この間の会議で、都市計画決定を打つ範囲が説明されました。それによれば、市有地の谷間に存在する民有地（菜園、産廃業者コンテナ置き場）を含めた範囲となっていて惣ヶ池湿地は含まれていません。

また、公園の名称については、都市公園法に基づく公園ではあるが、その名称については「里山自然公園」を入れることを強く要望していることからその文言は入ることになるとか思います。

公園協議会の運営は、現在市役所公園緑地課とコンサルタント事業者が中心となって進められています。このことについて会長より協議会のあり方について、市役所が音頭を取るのではなく、構成メンバーが主導し、市役所・コンサルが補佐役となるような本来のあり方を検討すべしとの発言があり、利用調整会議の中でもそのことが議論されています。

今年に入って2月にはカスミサンショウウオの卵のうが盗まれ、5月にはトキソウが盗掘されました。こうした盗掘を監視・牽制するために、現場に入る際は「調査員」の腕章を付けて入ることになりました。FANクラブは市有地内湿地の重要種を定期観察し、その記録を協議会に報告することにしています。「調査員」の腕章を5枚預かっていますので、今後重要湿地に入る際は、腕章を付けて入るようにしてください。（腕章は事務局まで）

サギソウ移植成功か？

今年の夏は、惣ヶ池湿地でサギソウを鑑賞することができました。これは、無菌培養したもの移植したものです。



惣ヶ池湿地で移植に成功したサギソウ

この無菌培養したサギソウは、約10年前に市内の園芸店の青年（T氏）がFANクラブ前代表花田茂義さんに相談にやってきて「信太山丘陵のサギソウを盗掘などによる絶滅から守るために」と無菌培養を持ちかけてきたことがきっかけで、花田さん、島崎さん筆者の4人で「SSプロジェクトクト」（SSとは「信太山サギソウ」）を立ち上げ、現地で受粉させたものから採取した種を無菌培養し、前代表が育ててこられたものです。



栽培中の無菌培養サギソウ

前代表が他界される半年前（平成27年3月）、培養種の植替えを手伝った折に余った球根を初めて市有地内の湿地と惣ヶ池湿地に移植を試みました。しかし、旨く育たず初年度は開花を見ることができませんでした。

その後無菌培養種は信太の森ふるさと館の裏庭に移して育て、昨年、今年と移植先を変えながら移植を試みてきました。その結果、惣ヶ池湿地でみごと開花してくれました。

豊橋市の葦毛湿原見学

月17日豊橋市にある葦毛湿原を見学してきました。車2台に分乗し、その日参加したのはFANクラブ会員10名。

昨年伊賀上野の上野森林公園を見学したのに続き2回目の他地域湿地の見学です。

山の中腹から湧水する広い斜面の湿地には、サギソウのほか信太山丘陵にはないシロタマホシクサ、サワシロギク、ミズギク、トウカイコモウセンゴケ、ミカヅキソウなど珍しい植物を観察することができました。



葦毛湿原　　葦毛湿原　　の事前情報にトウカイコモウセンゴケというのがありました。信太山丘陵にあるコモウセンゴケとどこが違うのかと興味を持ちながら現地を訪れました。

それは湿原には沢山あって、その違いはすぐわかりました。ロゼット状の葉がコモウセではへら状であるのに対し、トウカイコモウセンは柄が細くスプーン状になっていることの違いでした。



長距離の観察行でしたが、来夏はもう少し近い花の伊吹山が候補にあがっています。

葦毛湿原に行ってきました

8月17日豊橋の葦毛湿原の観察に行ってきました。10人車2台に分乗し、8時50分にふるさと館を出発。西名阪、東名阪、伊勢湾岸道路、東名高速と乗継ぎ豊川ICでおりて13時にJR豊橋駅に到着。駅で葦毛湿原の観光パンフを貰い、葦毛湿原の駐車場に13時40分頃着きました。

みんなもうお腹がペコペコです。湿原入口にある東屋で腹ごしらえをし、元気を取り戻したところで湿原に向いました。右手に清流が流れるパワースポットのような森を抜け湿原まで5、6分。湿原に入るとサギソウが咲いており、惣ヶ池湿地では観察できないミズギク、ノリウツギ、シラタマホシクサがありました。其の他の色々観察することができましたが名前を忘れてしまいました。

資料によると、過去の葦毛湿原は木も少なく禿げ山に近い状態で植物や昆虫が多い里山として保たれていたようです。その後里山が放置され、森林化が進み絶滅した生きものもいたようで、近年になり愛知県、豊橋教育委員会などが調査を行い、湿原を復元して木道が設置されました。

16時前に現地を出発して帰路につきましたが、家に着いたのは20時30分でした。車を出してくださった方々。本当に疲れさまでした。ありがとうございました。

岩川美佐男>

お知らせ

今年も大阪自然史フェスティバルに参加します。ブース担当（半日）などお手伝いを兼ねて見に来てください。

11月17日（土） 18日（日）

9:30～16:30

文楽鑑賞はいかが？

先日、メール会員の方にはお知らせしましたが、会員の高村さんより信太の森ゆかりの文楽蘆屋道満大内鏡「葛の葉子別れの段」「信田森二人奴の段」の11月（11/3～11/25）公演の案内がまいりました。会場は国立文楽劇場です。

ご興味がある方は下記でチケットをご購入の上ご鑑賞ください。

チケット予約 国立劇場チケットセンター

電話予約: 0570-07-9900

インターネット予約：パソコン

<http://ticket.ntj.jac.go.jp/>

インターネット予約：スマート

<http://ticket.ntj.jac.go.jp/m>

10月14日は惣ヶ池湿地の保全活動日でした。この日の作業は、池の中に入れてウシガエルのオタマジャクシを駆除しようと考えていたのですが、綺麗に咲いたミズソバを踏みつけることになるため予定を変更して倒木処理と畔の草刈を行いました。

この時期の惣ヶ池湿地ではミズソバが満開になります。これまで満開になんでも色が褪せたミズソバしか見ることができませんでした。今年は今までと違って赤味の増した色鮮やかなミズソバが湿地の約7割位の広い範囲で咲いていて美しい景観を見せています。

ニュース発行が大変遅れました。7月末には、8月末にはと思いつつも発行するだけの話題も記事もなく10月発行となりました。

自然に関する話題などみなさんからの投稿をお願いします。

観察日記

森の和尚さん（コジュケイ）

惣ヶ池湿地の周りには、ニワトリよりやや小さいコジュケイが棲んでいます。鳴き声はご存知の方も多いかと思いますが、私たちの耳には「ちょっと来い、ちょっと来い・・・」と鳴いているように聞こえます。

非常に警戒心の強い鳥なので、「ちょっと来い」に誘われて近づくとすぐ逃げられてしまいます。

この鳥は、ニワトリ同様家禽にするために大陸から移入されたもので、人に慣れずに逃げられてしまったものが野生化して全国に広がったものです。

鳴き声は「チョットコイ」以外に「ケーツ、ケーツ」と警戒音を発して仲間や雛に危険を知らせる場合もあれば、時々「キヨツ、キヨツ、キヨツ、キヨツ、・・・」と鳴く場合もあります。

先日、惣ヶ池湿地で作業をしていると森の中で「キヨツ、キヨツ、キヨツ・・・」と長い間鳴っていました。それを聞いているとなんだか和尚さんが高音の木魚を叩いている音に聞こえてきました。

森の和尚さんの姿をカメラに捉えたいと思っていますが、道端でぱったり出会うことが多く、カメラを構える間に藪の中に逃げられてしまうことが多い鳥です。

